

地球は小さな惑星である。そこに生命が生まれ、酸素を含んだ大気と流れる海を作った。初めて地球を回ったガガーリンが、「地球は青かった」と呟いた。その宇宙船は、科学技術の無限の発展を象徴するように見えたが、同時にそれは、技術が世界を全面的に加工し、改変していく予兆だった。

あれから、人間活動が爆発的に増大し（「グレート・アクセレレーション」）、地質学的には「新世」と呼ばれる時代に突入した。微妙なバランスで保たれてきた平衡が崩れ、資源の枯渇、廃棄物の蓄積、動植物の絶滅、温暖化が臨界点を越え、世界は今、真つ逆さまに奈落に向かおうとしている。

大人たちは、聞きたくなかった、見たくなかった、知りたくなかった。崩壊がやってくることを。だが、嘘をつき続けることはもうできない。毎年、地下のメタン・ハイドレート、柵水や山岳氷河が溶け出し、洪水や山火事、熱波に寒波、嵐や竜巻で、たくさんの人や動物や森が死に、家や橋や学校が

グレタと地球への讃歌

随想

竹田 真木生

壊され、その上に疫病まで襲ってくる。この禍々しい異変はどこから由来するのだろうか。それは、我々の中にある強欲から。

そんなあるとき、小さな叫びが上がった。遠い、北欧の国からだ。その声は持続し、大きくなっていた。大人たちはいろんなことを言い、無視する人もいた。声の主、グレタ・トゥンベリは、発言をやめず、そして今、科学的な事実に即した議論のため、「気候変動と環境危機—いま私たちにできること」という本をまとめた。

僕らの新しい教科書。昨秋、彼女はまだ十代。464頁の立派な装丁の本だ。ありがとう、グレタ。僕らも仲間に加わり、行動するよ！



たけだ・まきお 昆虫学者・神戸

大名譽教授。京都大農学部卒、米國ミズーリ大学大学院博士課程修了。現在、食用コオロギの生産に取り組み、埼玉県熊谷市ではピノキオ幼稚園園長も務める。